

幕臣の先祖探訪—河津祐邦と角田桜岳の交友—

■令和7年5月18日「そろくの日」報告

■改修工事に伴う休館について

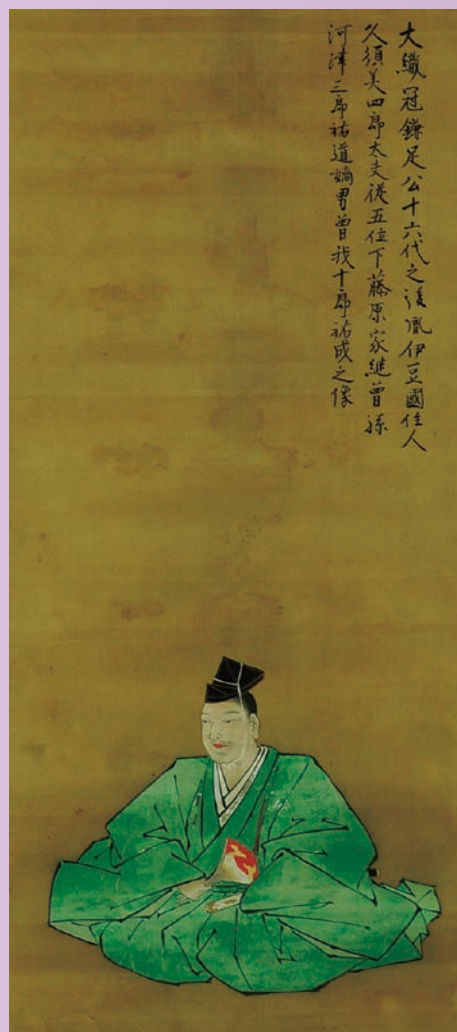
■館外展示のお知らせ



久須美祐利が先祖である曾我兄弟を祀った祭壇の図
当館蔵



同じく曾我五郎時致肖像
当館蔵



久須美家に伝来した曾我十郎祐成肖像
当館蔵

二〇二五年七月

通巻162号

沼津市明治史料館通信

幕臣の先祖探訪 — 河津祐邦と角田桜岳の交友 —

駿河国富士郡大宮町（現富士宮市）の組頭・町年寄などをつとめた素封家角田桜岳（与市・定経、一八一五～七三）は、各地の国学者・洋学者らと交流し、地誌編纂に携わり、地球儀を製作するなど、新しい知識を貪欲に吸収した幕末の文人だった。彼が残した日記（天保一二年～慶応二年分が翻刻・出版）には、さまざまな人々と往来するようすが記録されており、興味深い。ここで紹介する小さな逸話もその一つである。

助郷をめぐる訴訟のためであろう、桜岳はたびたび江戸に滞在することがあった。その際、幕府に仕える武士と知り合った。それが河津祐邦（三郎太郎・伊豆守・駿河守、一八二一～七三）である。河津は徒目付・箱館奉行支配組頭・外国奉行・歩兵頭並・関東郡代・長崎奉行・外国事務総裁・若年寄といった経歴をたどり、家禄一〇〇俵の低い身分から幕末に頭角を現した人物。文久三年（一八六三）には幕府が横浜鎖港談判のためフランスに派遣した使節団に加わったことでも知られる。その河津がまだ二〇代の頃、桜岳と交際することになったのである。桜岳日記に記されているのは、以下のような経過である。

天保一三年（一八四二）七月一日、江戸滞在中の桜岳は、浅草の僧道本の仲介により、旗本「河津三郎兵衛殿嫡男同三郎太郎殿」と面会し、「重須曾我もの語」を見せたほか、河津の先祖が延宝の頃に富士郡の曾我社を参詣した際、「神霊白蛇」が二匹出現し、扇子の上に鱗二枚を残したという逸話があること、同じ逸話は「五万石の伊東方」にも伝来していることなど、いろいろな話を聞いた。祐邦が家督を継ぐのは嘉永三年（一八五〇）のことで、桜岳日記が「河津若殿」と記しているように、当時はまだ部屋住みの身だった。富士郡には曾我兄弟を祀る曾我八幡宮が点在していたが、富士の巻狩りや曾我兄弟の仇討ちは、桜岳にとっては郷土史、河津にとっては先祖にまつわる故事で



パリで撮影された河津祐邦
個人蔵

あり、二人に共通する話題であった。代々の諱に「祐」の字を使うことからわかる通り、幕臣河津家は河津祐泰（曾我兄弟の父）を先祖としており、若き祐邦も遠祖ゆかりの富士郡に興味関心を抱いたのである。祐邦は、いずれ同地を訪問したいと桜岳に述べた。なお、「五万石の伊東」とは、曾我兄弟に討たれた工藤祐経の子孫と称した日向国・飫肥藩主伊東氏（五万石）のことである。

同月一六日には河津家を訪問した。延宝年間、浪人だった先祖が江戸へ来る際、富士郡厚原村（富士市）の曾我八幡宮に立ち寄り、系譜や古文書を筆写したことなどを聞き、宇治川合戦の時に下賜された鞍などを見せられた。また、祐邦の二番目の弟は、江戸町奉行所の与力の家を継ぎ仁杉鋌三郎（桜岳日記では貞三郎）と名乗ったが、義父の不正に連座し、家は断絶、天保一三年から同一五年の間、八丈島に配流となっていた。その仁杉家は、蒙古襲来時に九州へ赴いた河津家先祖の代わりに、伊豆に残った弟の子孫で、小田原北条氏の時代に「ミくりやの仁杉村」（御殿場市）を領し、仁杉を姓としたことなども聞かされた。流罪となった実弟のため、味噌を嘗めるような苦勞も厭わな

といった祐邦の発言も書き留めており、河津家の裏事情までも桜岳は詳しく知ったのである。河津鉦三郎の名は、天保一二年に高島秋帆が実施した徳丸原調練の砲手として、兄孝之助（祐邦の次弟か）とともにあり、西洋流砲術を学んだことがわかり、河津家の開明性がうかがえる。

訴訟関係での必要性から、その後も訪問や文通を繰り返して桜岳・祐邦の交流は深まり、やがて祐邦は富士郡厚原村と上井出村（富士宮市）にある曾我八幡宮を訪れることになる。弘化四年（一八四七）九月のことであり、公務での出張のついでだった。二三日に厚原村の曾我八幡宮、二四日は大宮町の富士浅間神社、二五日は白糸の滝、二八日は上井出村の曾我八幡宮を訪れ、滞在先の大宮町を出立したのは二九日だった。厚原村へは桜岳も随行したほか、宿泊先では親しく懇談を重ねた。なお、既刊の人名事典類では祐邦の家督相続前の履歴は欠けているが、この時の出張に同行した同役二名の氏名（森惣蔵・水島団助）が桜岳日記に記されていたことから、当時、勘定奉行配下の論所地改だったことが判明した。

余談ながら、厚原村・曾我八幡宮の神主雨宮紀伊邦孝は、慶応二年（一八六六）に平田篤胤没後門人となり、戊辰戦争の際には新政府軍に協力するべく駿州赤心隊に参加した。河津祐邦来訪時に対応した雨宮富太郎は、本人かその父であろう。安政期にも、桜岳は河津家から雨宮への初穂料を預かったりしている。

元治元年（一八六四）一〇月七日の桜岳日記には、江戸の蘭方医伊東南洋方で、伊豆守から駿河守に改称した「河津三郎太郎殿」に面謁し、「仏蘭西行ノ話何カレト」と聞いたとあり、祐邦から親しく洋行の土産話を聞かされている。長く交遊が継続していたのである。

残念ながら、その後や明治以降の二人の交際については不明である。祐邦の家督を継いだ養子河津祐賢（官四郎・三郎太郎、一八四二～一九一七）は、幕末には砲兵頭並などをつとめ、維新後は駿河に移住し沼津勤番組一番頭取となり、明治陸軍では砲兵第一方面副提理などを歴任、陸軍砲兵中佐に進んだ。津田真道や江原素六が幕末維新期に角田家の人々と交際したことは知られているが、祐賢が桜岳と交流する機会があったか否かはわからない。

一方、祐邦のもう一人の養子、娘婿河津祐之（旧名黒沢孫四郎、西端藩士出身、一八四九～一九四）は、幕府の開成所に学び、外国方翻訳掛などに抜擢されたが、維新後は新政府に出仕、大学少博士・元老院書記官・通信次官などに就き明治政府の官僚として生きた。祐邦は維新後、稜威と号し、東京に残留しているの、祐賢ではなく分家を立てた祐之のほうに身を寄せたのかもしれない。明治三年（一八七〇）に租税権正に任命されたものの半年ほどで辞任し、同年には中山道郵便馬車会社を設立し、その社長となったほか、五年（一八七二）には陸羽街道馬車会社の設立を発起するなど、

社会的な活動を続けた。四年正月に静岡学問所教授三田葆光宛に送った書簡では、これからは「風月」をともに余生を送りたいなどと記していたが（東京都立中央図書館蔵・渡辺刀水旧蔵諸家書簡）、決して世捨て人になったわけではなかったらしい。祐賢・祐之の処遇に関し、大蔵省での上司となった大隈重信に書簡で報告するなどもしている（早稲田大学図書館蔵）。

角田桜岳と河津祐邦が亡くなったのは、奇しくも同じ明治六年（一八七三）のことだった。

なお、沼津兵学校には、やはり曾我兄弟を先祖とする家系の久須美祐利（一八四五～一九一七）が三等教授として在職したが、はたして同じ沼津に移住・勤務した河津祐賢との間で先祖について話す機会があったであろうか。久須美は、先祖の肖像画を掲げての祭祀を行い、その祭壇図を自ら描き残している。

〈参考文献〉『角田桜岳日記』一～五（二〇〇四）二〇〇九年、富士宮市教育委員会）、赤瀬浩『河津祐邦』（二〇一七年、長崎文献社）、『江戸幕府勘定所史料―会計便覧―』（一九八六年、吉川弘文館）、『八丈実記』第四卷（一九六四年、緑地社）、『原胤昭旧蔵資料調査報告書（3）―江戸町奉行所与力・同心関係史料―』（二〇一〇年、千代田区教育委員会）、有馬成甫『高島秋帆』（一九五八年、吉川弘文館）、『任解日録』（一九七〇年、唐沢富太郎）

令和7年5月18日（日）「そろくの日」報告

明治史料館では、平成19年度から、江原素六の命日（5月19日）直前の日曜日に「そろくまつり」を開催してきました。

コロナ禍を経て、令和5年度以降は「そろくの日」と改名し、江原素六の功績や人柄について楽しく学べる機会を提供することを目的として、実施しています。

おかげさまで、今年度もたくさんの方々にご来館いただきました。

沼津市明治史料館
そろくの日
郷土の偉人 江原素六について学ぼう！
5/18 (日)
終日無料開館！



体験コーナーのお申込み等
詳細はHPをご覧ください



当日は公共交通機関を利用して
ご来館ください。

〈お問い合わせ〉
沼津市明治史料館 ☎055-923-3335



◀房楊枝作り体験のようす

江原素六先生顕彰会の方にご協力いただきました。

楽しかったです！
思っていたよりも木が
硬くて、叩くのが大変
でした。

▶紙芝居のようす

紙芝居師の小田香代さんにご協力いただきました。

そろくさんの子ども
時代がよく分かりました。



改修工事に伴う休館について

施設の長寿命化を図る改修工事を行うため、次の期間休館します。

休館期間 令和7年7月21日(月)～令和8年2月28日(土)【予定】

※休館中、事前申込みによる資料閲覧への対応、出前講座等の館職員派遣事業は、実施します。

館外展示のお知らせ

第22回明治史料館 館蔵資料展「べらぼうの時代の沼津の文化」

日 時 9月2日(火)～9月29日(月)

内 容 薦屋重三郎が生きた時代の人物の作品を展示します。沼津ゆかりの文化人から、江川坦庵や山東京伝といった著名人の書画など、様々な分野で活躍した人物たちの作品を揃えました。

場 所 沼津信用金庫本店ストリートギャラリー 沼津市大手町5丁目6-16

沼津市明治史料館通信

第162号

令和7年7月31日

編集・発行 沼津市明治史料館

〒410-0051 沼津市西熊堂372-1

TEL 055-923-3335

FAX 055-925-3018

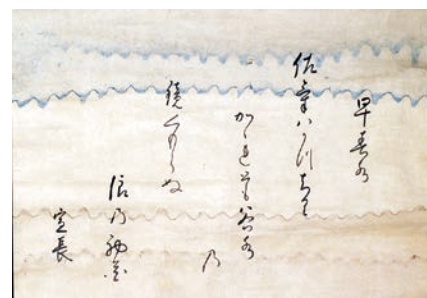
印刷 みどり美術印刷株式会社



▲水野出羽守作茶碗

【主な展示資料】

- ・種玉庵連山:「六代松に関する発句」
- ・植松応令:「鶴の図」



▲本居宣長詠歌「早春水」

- ・林鶯溪:「元日試筆」
- ・山東京伝:「人物画・狂歌」 など